

2023年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、北米北東部、ヨーロッパ中部～西シベリア、北日本～北太平洋中部で正偏差、東シベリア北部～北米西部で負偏差となった。200hPa 風速をみると、偏西風は、日本付近～北太平洋では平年の位置と比べて北寄りを流れた。海面気圧をみると、北太平洋の中緯度帯、北米北東部、ロシア西部で正偏差、東シベリア～北極海で負偏差となった。850hPa 気温をみると、ヨーロッパ中部～西シベリア、北日本～北太平洋中部、カナダで高温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋西部～インドシナ半島、西部太平洋赤道域～太平洋中・東部の北緯5度帯で活発、中・東部インド洋赤道域の南半球側、フィリピン付近、太平洋中部の北緯10度帯、中米～南米北部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相の東進は不明瞭だった。対流圏上層では、太平洋の北緯30度帯～中米で低気圧性循環偏差となり、中部太平洋トラフは平年と比べて明瞭だった。米国～北大西洋～ユーラシア大陸南部で波列状の偏差パターンとなった。対流圏下層では、インド洋東部で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。フィリピン付近で高気圧性循環偏差となり、モンスーントラフは平年と比べて弱かった。海面気圧は、熱帯域では、インド洋南東部で正偏差、インド洋西部、太平洋で負偏差となった。北大西洋西部の亜熱帯域で負偏差だった。

た。南方振動指数は-1.3だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.75℃(速報値)で、1891年の統計開始以降、2015年を上回り9月として最も高い値となった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.71℃/100年(速報値)である。

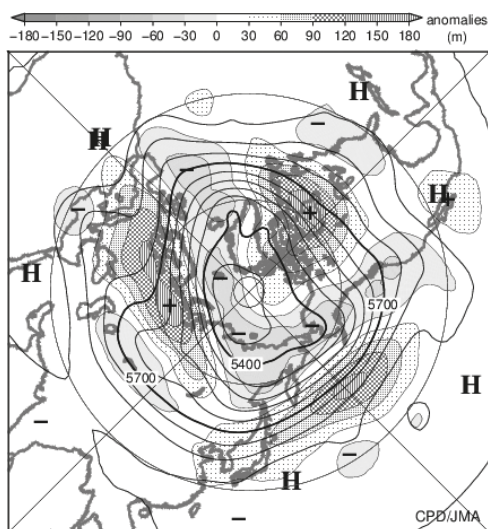
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 日本～中国北部、バイカル湖付近、中国南西部～インド北東部、フィリピン～インドネシア西部、西シベリア西部～北アフリカ北西部、エジプト北部～アラビア半島南部、西アフリカ中部、インド洋熱帯域南西部、北米北部～北東部、中米～南米中部、オーストラリア西部～南東部、南極大陸太平洋側で異常高温、南米南部で異常低温となった。
- モンゴル～カザフスタン中部、西シベリア北部及びその周辺、ウルグアイ及びその周辺で異常多雨、西シベリア西部～北アフリカ北西部、北米東部、メキシコで異常少雨となった。

(気象庁 大気海洋部 気候情報課)

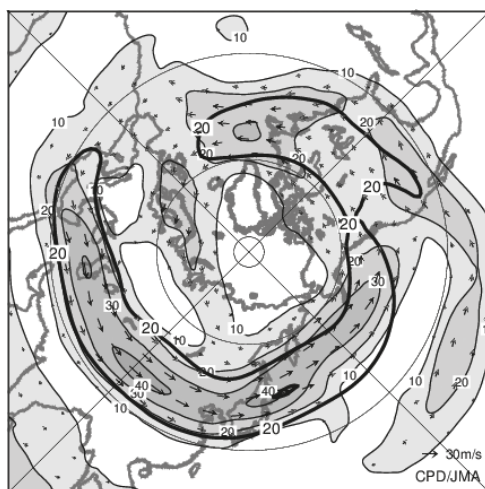
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/diag/sokuho/index.html>



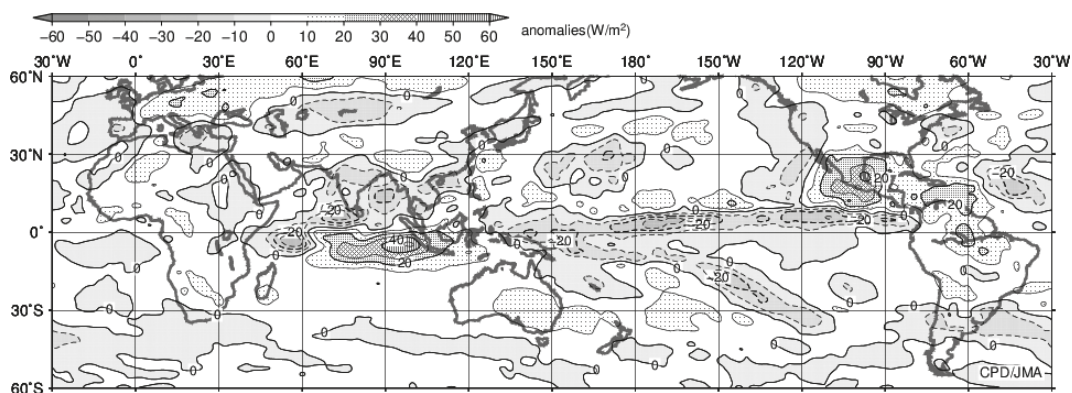
2023年9月の北半球月平均500hPa 高度及び
平年偏差

等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は
1991～2020年の平均値。



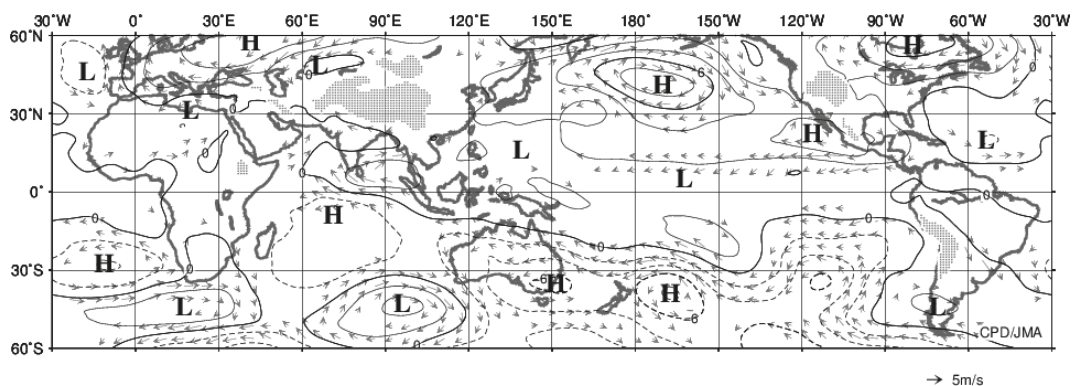
2023年9月の北半球月平均200hPa 風速及び
風ベクトル

等値線間隔は10m/s。太実線は平年の風速で等値
線間隔は20m/s。平年値は1991～2020年の平均値。



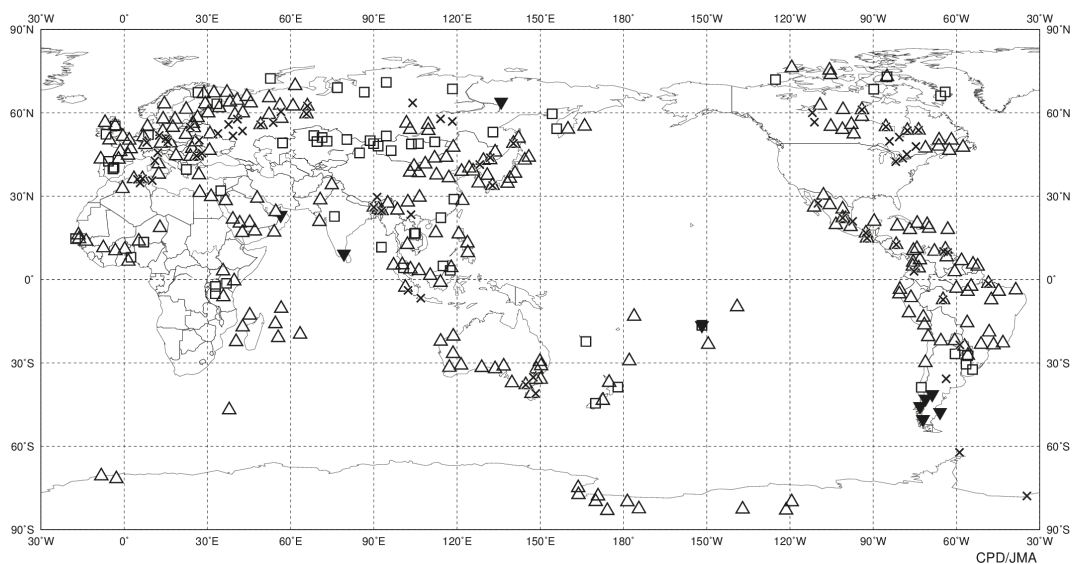
2023年9月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）気候予測センター（CPC）より提供された Blended OLR を用いて作成。平年値は1991～2020年の平均値。



2023年9月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1991～2020年の平均値。



2023年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。